

子ども・子育て支援事業計画に基づく確保方策の見通しについて

利用定員と子ども・子育て支援事業計画の関係

		定員 *1	超過受入	計 ※最大受入	計画に定めた 確保方策 ※各年度目標値	最大受入と 確保方策の差	受入実績 *2	
H 29	幼稚園等	1号	650	0	650	-	675	
		幼稚園(私学)	2,900	0	2,900	-	2,442	
		計	3,550	0	3,550	3,014	536	3,117
	2号		1,183	0	1,183	1,109	74	1,110
	3号	0歳	164	23	187	200	△13	187
		1・2歳	637	39	676	675	1	676
計		5,534	62	5,596	4,998	598	5,090	
H 30	幼稚園等	1号	1,490	0	1,490	-	-	
		幼稚園(私学)	1,920	0	1,920	-	-	
		計	3,410	0	3,410	2,970	440	-
	2号		1,313	0	1,313	1,093	220	-
	3号	0歳	191	23	214	256	△42	-
		1・2歳	700	39	739	731	8	-
	計		5,614	62	5,676	5,050	626	-

*1 幼稚園（私学）は認可定員、その他は利用定員。

*2 H29 の受入実績について、幼稚園等は平成 29 年 11 月 1 日時点、2 号、3 号は平成 30 年 1 月 1 日時点の実績。

1、2号認定子ども

・引き続き、十分な受入枠が確保されます。

3号（0歳児）認定子ども

・目標とする受入枠を確保できない見込みです。

3号（1・2歳児）認定子ども

・目標とする受入枠を確保できる見込みです。

0歳児の受入枠確保対策

- ①保育施設等の整備
- ②既存の保育施設への超過入所の依頼

既存の保育施設への超過入所の依頼につきましては、保育士がこれまで以上に必要となることから、保育士の確保対策が必要と考えています。

平成 29 年度は「潜在保育士研修会」を開催し、保育士資格を保有しながら保育園等に勤務していない方の保育現場への復帰促進を図ったほか、「保育士等人材バンク事業」、「合同職場説明会」を継続して実施し、保育士確保に努めました。平成 30 年度もこれらの取組を継続し、保育職場と保育職希望者を結びつけ、保育の担い手の増加に努めます。